
高橋美津子さん

大学院 平成17年博士課程修了

私は、2001年に、52歳で修士課程に入学し、2005年に博士課程を修了しました。私の子供たちは、当時、高校生と大学生で、私は仕事もしていたので、生活のバランスを取りながら、5年間、京都から通学しました。登校する時、校門に立っていた警備員が、丁寧に頭を下げます。

ああ、私のことを先生だと思っているのだな、と思いました。現役院生とは親子ほどの年の差があったので当然です。「院生です」とわざわざ言うのも変なので、そのまま私も頭を下げて通り過ぎていました。入学前の面接で、「大学院ではコンピューターを使いますが、パソコンは使えますか？」と聞かれました。当時はまだ一般家庭にはパソコンは普及していませんでしたが、うちにはずっと前からあったのです。でも、私は興味がなく触ったことがありませんでした。でも、「はい、使えます！」と見栄を切ってしまったのです。そう言わないと、合格できない雰囲気だったからです。さあ大変。帰ってすぐ、パソコンの使い方を学びました。昔のタイプライターは高速で打てたので、キーボードを打つのに問題はありませんでしたが、メールなどやったことがなかったので、そこそこ大変でしたが、見栄を張った手前、できないわけにはいかなかったのです。必死でした。若い院生たちともすぐ友達になり、先生方にも親切にして頂き、有意義な5年間でした。学位授与式の日、講堂に入ると、「あ、こちらです」と、別の席に案内されそうになりました。また保護者と間違えられたのです。笑

当時の級友の中には、苦手だったコンピューターを教えてくれた人がいて、今でもお世話になっています。人生の中で、有意義で楽しかった時はたくさんありますが、大学院の5年間は、間違いなく、そういう時期の一つでした。お世話になった先生方と友達に心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。